東京都市大学共通教育部紀要　抜刷　2022 Vol.15

A Japanese Translation of Wulfstan's Homilies on Evil Days

試訳 ウルフスタンの「邪悪な時代」についての説教

和田　忍
市川　誠

Journal of Liberal Arts and Sciences at Tokyo City University Vol.15, 2022

試訳 ウルフスタンの「邪悪な時代」についての説教

外国語共通教育センター　和田 忍（東京都市大学）
市川 誠（東京理科大学）

1. はじめに

本稿は、後期古英語期の散文作家ウルフスタン (Wulfstan 生年不詳 -1023 年没) の「邪悪な時代」についての説教 (Homilies on Evil Days) の日本語訳であり、これまで筆者たちが公表してきた一連のウルフスタン作品訳の最後となるものである。本稿が底本として依拠する *The Homilies of Wulfstan* (1957) の編者である Bethurum によれば、以下の作品が「邪悪な時代」についての説教に属する。なお、各作品の右に記したページ数は、Bethurum の刊行本でのページ数を示す。

(1) God's Threat to Sinning Israel (pp.251-4)
(2) Sermo ad Anglos (pp.255-76)
(3) Evil Rulers (pp.277-8)

上記3つの作品のうち *Sermo ad Anglos* (または *Sermo Lupi ad Anglos* とも呼ばれる) はウルフスタンの代表作の一つとして著名であるが、この作品の日本語訳として、すでに小河 (2019) があるため、本稿ではこの作品の提示を省略する。拙訳を提示する前に、Bethurum の記述に基づき、本稿で取り上げる「罪深きイスラエルに対する神の戒め」(God's Threat to Sinning Israel) と「邪悪な支配者」(Evil Rulers) について簡単に述べる。

「罪深きイスラエルに対する神の戒め」は旧約聖書レビ記第 26 章第 3 節から第 43 節の抜粋であり、3 つの写本に現存する。この作品は 2 つの部分に分けることができる。前半部は、レビ記第 26 章からのラテン語抜粋であり、

後半部は、ラテン語を理解することができない聴衆のために書かれた古英語の翻訳である。前半部の特徴としては、レビ記第26章16節から25節の対応箇所に見られるように、ウルフスタン自身のラテン語による翻案があることが挙げられる。他方、後半部の古英語の箇所では、ヘブライ社会の概念を表す際、ウルフスタンは聴衆に馴染みのある *heretoga, mundbora, þegnan* といった古英語の名詞で置き換えているのが特徴である。

「邪悪な支配者」は、ウルフスタンの後期作品であり、表題にある副詞GYTが示すように、*Sermo ad Anglos* の続編として見なされる作品である。実際、この作品が現存する3つの写本 (Cambridge, Corpus Christi College, 202, London, British Library, Cotton Nero A.i, Oxford, Bodleian Library, Hatton 113) では、「邪悪な支配者」は *Sermo ad Anglos* の次に収録されている作品である (Ker 1975: 86, 213-4, 393-4)。

次節以降で、*Sermo ad Anglos* を除く「邪悪な時代についての説教」の2作品の日本語訳を提示する。なお、本文でのラテン語聖書引用箇所の日本語訳は、基本的には、共同訳聖書実行委員会『聖書新共同訳 旧約聖書続編つき』に従うが、「罪深きイスラエルに対する神の戒め」前半部におけるラテン語聖書に対応箇所のないウルスタンの翻案箇所は、筆者独自の訳である。また、「罪深きイスラエルに対する神の戒め」前半部のラテン語箇所と後半部の古英語箇所を対比させるため、前半部すべてに斜体を施していることに留意されたい。

2. 罪深きイスラエルに対する神の戒め (God's Threat to Sinning Israel)

(Bethurum p. 251) 親愛なる人たちよ。神を愛し、神の律法を守った人、そして、神を激怒させ、神の律法を破った人に何が起こったか書物を通して学び、そのような事物から自らを戒めよう。神は自らそのような事例を示し、かつて指導者であるモーセに次のように語った。主は次のように言う。

「あなたがたがわたしの掟に従って歩み、わたしの戒めを忠実に守るならば、わたしは時季に応じて雨を与える。それによって大地は作物をみのら

せ、野の木は実をみのらせる。穀物の収穫にはぶどうの収穫が続き、ぶどうの収穫には種蒔きが続いて、あなたたちが食物に飽き足り、国のうちで平穏に暮らすことができる。わたしは国に平安を与え、あなたたちは脅かされることなく安眠することができる。わたしはまた、猛獣を国から一掃し、剣が国を荒廃させることはない。あなたたちは敵を追撃し、剣にかけて滅ぼす。あなたたちは五人で百人の敵を、百人で一万の敵を追撃し、剣にかけて滅ぼす。わたしはあなたたちを顧み、あなたたちに子を生ませ、その数を増し、あなたたちとわたしの契約を立てる。あなたたちは前年の穀物を食い尽くさぬうちに、それを倉から運び出して、新穀を倉に納めるようになる。私はあなたたちの中に私の住まいを置き、(p. 252) *私の魂はあなたたちを退けることはない。私はあなたたちのうちを巡り歩き、あなたたちの神となり、あなたたちは私の民となる*（レビ記第26章3-12節）。*全能の神は言う。主は同じく言う。もしあなたたちがわたしの言葉を聞かず、私の戒めを行わなければ、あなたたちの上に、困窮、飢饉、疾病を打ち立てる*（cf. レビ記第26章16節）。*あなたたちは敵に打ち破られ、迫害する人から逃れることはない*（cf. レビ記第26章17節）。*私はあなたたちに対し天を鉄のようにし、地を赤銅のようにする。あなたたちの力は無益なものとなるだろう。地で作物を実らず、地上の木に実はならない*（cf. レビ記第26章19-20節）。*わたしはあなたたちの上に剣をもたらし、あなたたちは敵の手に渡される*（cf. レビ記第26章25節）。*あなたたちの国は荒れ果て、町々は廃墟と化す*（レビ記第26章33節）。*民の罪のために国が荒れ果てる時、生き残った者はやせ衰えながら自分と自分の先祖の罪を告白するだろう*（cf. レビ記第26章39-40節）。*彼らは私と私の戒めを軽蔑したので、彼らの無割礼の心は揺れ動き、私に対して叫んだ。私は祖先の契約を思い起こし、地は安息を受け入れるだろう*（cf. レビ記第26章41-43節）。

以上、主がモーセの手を通してイスラエルの民に送ったことばである。

　ああ、親愛なる人たちよ。もし、然るべく、自らの必要を熟慮するのならば、私たちはそのような事例から自らを戒めることができる。ラテン語を理解することができない人は、ラテン語が語ることを少しばかり英語で聞きなさい。*主は次のように言う。あなたがたがわたしの掟に従って歩み*（レビ記

第 26 章 3 節) など。我々の主は指導者であるモーセに、民を導き、民を熱心に戒め、彼らに次のように言うよう命じた。もしあなたたちが正しく私の戒めを守るなら、彼は言った、私はあなたたちの作物と収穫をもたらす天気を送ろう。私はあなたたちに十分な富と食事を与えよう。私の庇護の下、あなたたちは地で繁栄し、平和に暮らすだろう。(p. 253) そして、私はあなたたちを傷つけるあらゆる害、戦争、飢饉、至るところで圧迫する敵の力からあなたたちを守ろう。また、私は勝利の力、大きな力をあなたたちに与えよう。それは、あなたたちの気晴らしとして、多くの敵を倒し、敗走させるほどのものである。もし私の気に召すほど私に耳を傾けるなら、私はあなたたちに助言をし、あなたたちを大いに鼓舞し、正しい誓いで友情を示し、あなたたちを大きな喜びで導き、あなたたちを僕とし、あなたたちの庇護者となろう。もしあなたたちが心を私から背け、私の教えと戒めを軽蔑するなら、すぐに、貧窮、苦悩、争い、悲痛、戦争、飢饉があなたたちの災いとして起こるだろう。あなたたちの心は大いに恐れ、あなたたちの敵の力は大いに増大し、敗走し、大いに恐れるあなたたちは、しばし、臆病にも小さな軍隊を避けるのである。天候不順のために不作が頻繁に起こり、強盗や疫病が大きな苦しみとなる。あなたたちは敵の手に渡され、彼らはあなたたちを大いに苦しめる。彼らは地を荒廃させ、町々を焼き払い、財産を破壊し、国土を台無しにするのである。地は罪のために堕落し、民の栄光は大いに消え去り、惨めな生存者は、彼らと彼らの祖先が、(p. 254) 私の律法を守ろうとせず、多くの仕方で私を軽蔑したことで私を激怒させたという罪について悲痛な心で嘆き悲しみ始める。それから、遅きに失するが、頑なな心の硬さは、その行いのために私が人類に送る厳しく激しい罰によって大いに和らぐのである。それから、彼らは叫び、私に助けを求め、不正を捨て去り、正しさに向かうのである。そして、私はすぐに以前の約束、私がかつて彼らの祖先に与えたすべてを思い起こすだろう。もし彼らが正しく私に従うおうとするのなら、私は彼らを導こう。私は地を庇護し、民を守り、私を愛し、正しく従おうとする民に喜びを送ろう。以上が神自らがモーセに対して与えた神のことばである。すべてがあらゆる民の模範となる。望む人は気にかけよ。神が私たちを守りますように。アーメン。

3．邪悪な支配者 (Evil Rulers)

(p. 276)　ここでさらに国に必要な正しい警告と真の戒めがある。

　親愛なる人たちよ。今後は常に、私たちに必要なように、自らの問題を、聖俗問わず、賢明に、そして慎重に整理し、不義から正義へ向かうべきことを理解しよう。なぜなら、当然すべきように、神に対して大いに罪を犯し、この国を混乱させる人たちを抑え、世俗的に戒めることには、余りにも長く時間がかかり、余りにも時間が少ないことは明らかである。しかし、私が言うことは真実である。望む人は注意せよ。神の教えと世俗の法律を傷つけ、損なう人たちを大いに非難し、地の至るところで辱めることは、特に国民への罰として役に立つ。それにより、正義を守り、不義を捨て去ることに慣れるべきである。しかし、人はしばし非難すべきことを称え、称えるべきことを非難し、愛すべきことを大いに憎むほど、国内で広く状況は悪化している。(p. 277) しかし、かつて、状況が良い時は、邪悪さや悪行にしばらく留まる人、嘘をつくことに慣れていた人は、主へとすぐに立ち返らない限り、世間の恥となり、神を愛する人たちすべてが彼を導いたのである。そして、聖俗問わず、状況が思慮深く高潔である時、人は正義を愛し、不義を避けたのである。しかし、虚偽によって偏屈に悪態をつき、虚偽で真実を打ち負かす人は、注意深く、より賢明であるように思われる。しかし、彼が止めない限り、その注意深さとすべての高潔さゆえに、彼に災いあれ。ああ、私たちが神を愛する人を愛し、神を激怒させる人を激しく避け、彼らが服従し、熱心に償う前に、交わりを持たないことは正しいことである。それを望まない人に対しては、彼らの罪と罰を私たちが受けないよう、世俗の力で迫害しよう。私たちに必要なように行おう。神を喜ばせ、神の法を守り、共通の利益に毅然とした態度を取ろう。さらに、聖俗を問わず、全国民の必要すべてに有益な多くのことを熱心に考えよう。（終）

参考文献

Bethurum, Dorothy. *The Homilies of Wulfstan*. Oxford: Clarendon Press, 1957. Print.
Dodd, Loring Holmes. *A Glossary of Wulfstan's Homilies*. Yale Studies in English XXXV. New York: Henry Holt and Company, 1908. Print.
共同訳聖書実行委員会『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』東京：日本聖書協会 , 1995. Print.
Ker, N.R. *Catalogue of Manuscripts Containing Anglo-Saxon*. Oxford: Clarendon Press, 1957. Print.
小河舜「試訳：後期古英語期のウルフスタンによる説教 *Sermo Lupi ad Anglos*」『立教レビュー』第 48 号 (2019): 1-13. Print.